

1. 廉塾に槐(えんじゅ)は植生していたのか

追亡(三) 【『黄葉夕陽村舎詩 遺稿卷八』文政 9 年】

槐風竹露寂荒郊 槐風 竹露 荒郊に寂たり

柳径莎階小石橋 柳径 莎階 小石橋

独酌無人為温酒 獨酌人の為に酒を温むる無し

一池新月自良宵 一池の新月自から良宵

※槐風 槐の木を吹く風。まめ科の落葉喬木。幹の高さは 10 尺にもなる。莎ははますげ。

大意】槐に吹く風や竹の葉にやどる露にみたされて、荒れた郊外にあるわが家はひっそりとしている。柳の下のこみちやははますげの生えた階段を通り、小さな石橋をわたって庭をさまよう。わがために酒を温めてくれる妻はおらず、一人で酒を酌んでいると、池の中にくる新月はすばらしい夜をくりひろげている



①アカメガシワ



②マグロ

2. 槐が植えてあった所は茶山の居室の辺り

槐寮より拍子木鳴り候ハハ、誰にても返事いたし早々参り可被申候『菅太中存寄書』

※居室を「寮」と称したのか

廉塾の事既二有司へさし上候得者私の宅二あらず、(中略)、各家内共に自宅に居て塾に出勤すへし、元来拙者も自宅にて有て出勤いたし候へ共、失火類焼の後塾二居候なり

廉塾を有司(福山藩)に寄付したことによって「私の宅二あらず」となり、仮住まいの意識の基に「寮」を使用したと解釈。

図3-2 2 樹木の現状(部分)【特別史跡 廉塾ならびに菅茶山旧宅保存活用計画 94 頁】より福山市教育委員会 2017 年 3 月刊



廉塾屋敷略図【原図(文政7年・1824)より作図】

※茶山の医者について

富士川英郎著「菅茶山と頼山陽」(平凡社 1971 年刊)の「菅茶山年譜」寛政四年の項に「福山藩の儒医として五人扶持を給される」とあるが、同氏著「菅茶山上」(福武書店 1990 年刊)の寛政 4 年の出来事で、福山藩に関わっての「儒医」の記述はない(287 頁)

※①アカメガシワ

②マグロ

③薬園跡

A 敬寮(新塾)

B 槐寮(古塾)

C 南寮

参考:1934(昭和9)年の史跡指定時における樹木の調査 95 頁

「北条霞亭が文化 11(1814)年 2 月 20 日に佐藤子文の弟碧山に宛てた手紙には「(前略)先生は三十年前迄は医を兼而被致候よし。」(中略)、茶山が 30 才の頃には医者と塾の教師を兼ねていたようである。菅家では敷地の南東隅の三角地を茶山が医者をしていた当時の薬園跡と伝えている。」

①三十年前 「金粟園」時代

・文化 11(1814)年からは天明 4 年(1784)

・茶山が 30 才は安永 6 年(1777)

③廉塾屋敷地の造成は寛政 2 年(1790)であるから「薬園」は存在しない。

※廉塾天明年間開設説について

・菅茶山から三代目に当たる菅晋賢は明治 10 年(1877)文部省の私塾調査で「塾主氏名天明年間ヨリ文政十年迄ハ菅晋帥」(文部省編『日本教育資料』明治 23 年~25 年刊)と報告。この報告で菅家での「天明年間開設」説が定着したと思われる。尚、報告には天明年間開設の説明はない。

3. 槐とは 寺井泰明著「槐の文化と語源」より

雑誌名「桜美林論考. 人文研, 7」所収

1) 植物学の学名

- ①マメ科クララ属 学名はSophora japonica L.
- ②和名はエンジュ 中国名 国槐 家槐、
- ③中国北京で著名な槐

東岳廟「寿槐」 天壇「柏抱槐」 故宮「龍爪槐」



2) 槐のさまざまな役割

①実用面

- ・食用、染料、街路樹「(槐影)」「槐陰」、薬用(止血作用)、用材(框 床柱)
- ・樹陰によって一里塚や街路樹⇒長安天街(都大路)を槐衙と称す=槐樹列が官衙列に類似

②科挙(官僚登用試験)との関り

- ・槐花の咲く陰暦六、七月の頃は、科挙の時期
槐花の黄ばむ頃を “槐秋”
試験に赴くことを “踏槐”
⇒出世を願う挙子の忙しい時⇒官僚にとって
槐花の黄色は忘れることのできない色

③政治的意義

- ・槐は仁政(思いやりのある政治)を体現するものとして、宮廷・宮苑や役所に植えられた。
- ・“高位高官の象徴” 三公(太師、太傅、太保)の位に就くと自宅の庭に槐を植える習慣⇒槐字は住居や書齋に付して、居住者の字号となる
源実朝『金槐和歌集』の「金」とは鎌の偏を、「槐」は槐門(大臣の唐名)を表し、別名鎌倉右大臣家集と称した。

④信仰と民俗・故事

- ・槐は生命力の強い木で、土地に適って発芽し、根を伸ばし、高大に生長し、大きな樹陰を作る
⇒槐に社の樹としての資格を与えた
⇒社は大地の生産力の源である土地神を祀る

・日本には槐を“子安の木”として多産や安産を祈る信仰がある

4. 武元君立「槐雨山楼記」(『北林遺稿集』より)

- ①堂兄赤子(赤石子道)は医を業とす。其の書楼に扁(扁額)して、「槐雨山楼」と曰ふ。子道の子・宋相(赤石退蔵)、予に謂ひて曰く、「是れは茶山先生の名づくる所なり。楼は山に咫尺す。山には槐樹多し。庭前に又た近ごろ一槐を植う。(中略)。善き哉、先生の楼に命(命名)するや、叔の文を得て之れを記さんことを請ふ。

※赤子道一赤石士道 書楼名は槐雨山楼

子道の子一赤石退蔵 号は槐陰 廉塾の塾生

- ②徳を種(う)えて、以て子孫を福する者なり。而して槐を植えて之れ致す所に非ざるなり。今、子(退蔵)、亦だ能く業を勤めて徳を崇め、厚く自ら封植(木を植える)すれば、則ち家道の昌(繁昌)、子孫の榮(繁榮)、将(まさ)に槐樹とともに相ひ若(し 及ぶ)かんとす。

【翻刻】古人は槐樹に子孫の繁榮を托した。しかし槐樹を植えたからといって、徳が備わり子孫が繁榮するわけではない。先ずは己が業に勤め徳を修めることが肝要で、それがやがて子孫の繁榮につながるということだろう。槐樹の成長に子孫の繁榮を見ることができれば、それに越したことはない。槐樹は宿徳(修行を積んで高い徳を身につけている)の樹ということになるのか。

5. 茶山の「槐」への想い

槐・槐は宿徳(修行を積んで高い徳を身につけていること)の樹

※徳とは善行・善道・正義・道義など、道を行って体得した人のりっぱな行いの総称。

- ・仁政(思いやりのある政治)を体現するもの
⇒宮廷・宮苑や役所に植えられた
- ・高位高官の象徴

廉塾開設(寛政4年)以前の福山藩政治の乱れ

↓
・全藩一揆の勃発 宝暦一揆 天明一揆

↓
・為政者(藩士・村役人ら)の音信贈答の慣行

廉塾教育 「上」の士風(為政者)の人材育成

↓
今の士風に三種あり

↓
政教のミたれぬやう風俗のくつれぬやうに

↓
とこころさすハ上也。「夏のかげ」

↓
国ハ国政正しく、家は人倫と、のひて朝野風俗のうるハしき。「冬のかげ」

【参考資料】 廉塾、近郊の槐



廉塾の槐(2014年植栽)



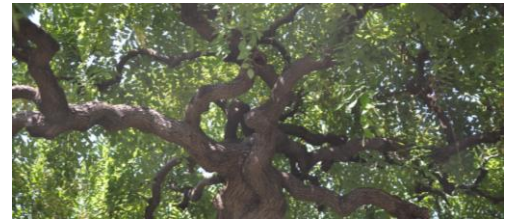
枝垂れ槐(吉備真備公園矢掛町)



花



岡山市立半田山植物園 枝ぶりから龍爪槐



【参考資料】 中国の槐



西安 解放路の槐並木



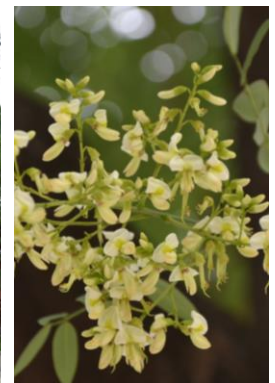
北京 朝陽門内街の槐並木



花



雲南省 大理 文廟の槐



花



曲阜 孔府 槐(槐陰)



孔府 枝垂れ槐



麗江 文昌宮 枝垂れ槐



ウズベキスタン タシケント 槐の街路樹 種の鞘



ベトナム ハノイ 私邸の槐



黄槐